

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成 17 年 6 月 9 日 (2005.6.9)

【公開番号】特開 2003-127608 (P2003-127608A)

【公開日】平成 15 年 5 月 8 日 (2003.5.8)

【出願番号】特願 2001-323856 (P2001-323856)

【国際特許分類第 7 版】

B 6 0 B 35/18

F 1 6 B 21/18

F 1 6 C 19/18

【F I】

B 6 0 B 35/18 A

F 1 6 B 21/18 F

F 1 6 C 19/18

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 9 月 6 日 (2004.9.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

上記内側、外側両係合溝 4 5、4 6 及び止め輪 4 4 の寸法を上述の様に規制する為、この止め輪 4 4 を内側係合溝 4 5 部分に装着した状態で、上記外輪 3 a を上記ナックル 3 0 の支持孔 3 2 に挿入すれば、前記車輪用軸受ユニット 1 a と上記ナックル 3 0 とを不離に結合できる。即ち、上記外輪 3 a をこのナックル 3 0 に対し結合する場合には、上記止め輪 4 4 を上記内側係合溝 4 5 部分に装着した状態で、上記外輪 3 a を上記支持孔 3 2 に、外側から内側に、図 1、2 の左から右に挿入する。この挿入作業により上記止め輪 4 4 は、上記支持孔 3 2 の外端部に形成した円すい凹面状のガイド面 4 8 に案内されつつ、外径が弾性的に縮められて、上記支持孔 3 2 内に押し込まれる。そして、上記止め輪 4 4 と外側係合溝 4 6 とが整合した状態で、この止め輪 4 4 の直径が、この止め輪 4 4 の外周縁が上記外側係合溝 4 6 の底面に当接する状態に迄、弾性的に広がる。そして、この様に止め輪 4 4 の直径が弾性的に広がった状態で、この止め輪 4 4 が上記内側、外側両係合溝 4 5、4 6 同士の間に掛け渡された状態になって、上記外輪 3 a が上記支持孔 3 2 から抜け出る事が防止され、上記車輪用軸受ユニット 1 a とナックル 3 0 とが不離に結合される。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 1】

上記ナックル 3 0 に車輪用軸受ユニット 1 a を結合する場合には、上記止め輪 5 4 を上記内側係合溝 4 5 部分に装着した状態で、上記第一、第二各腕部 5 6、5 7 を上記凹入部 4 7 a に整合させつつ、上記外輪 3 a を上記支持孔 3 2 に、外側から内側に、図 7 の左から右に挿入する。この挿入作業に伴って、上記止め輪 5 4 は、上記支持孔 3 2 の外端部に形成した円すい凹面状のガイド面 4 8 に案内されつつ、本体部 5 5 の外径が上記支持孔 3 2 の内径以下に弾性的に縮められて、この支持孔 3 2 内に押し込まれる。そして、上記本体部 5 5 と外側係合溝 4 6 とが整合した状態で、この本体部 5 5 の直径が、この本体部 5

５の外周縁が上記外側係合溝４６の底面に当接する状態に迄、弾性的に広がる。そして、この様に本体部５５の直径が弾性的に広がった状態で、この本体部５５が上記内側、外側両係合溝４５、４６同士の間には掛け渡された状態になって、上記外輪３ａが上記支持孔３２から抜け出る方向に変位する事が防止され、車輪用軸受ユニット１ａとナックル３０とが不離に結合される。

【手続補正３】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

